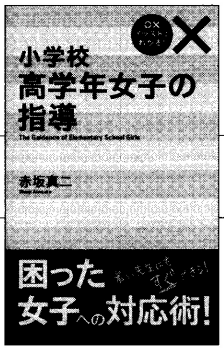
BOOK
ブック

赤坂氏は、小学校高学年女子との関係づくりが難しい理由として、彼女たちの形成する私的グループの存在を挙げる。グループの一人を叱るなどして関係が悪くなると、グループ全員と関係が悪化すると言うのだ。ここで、グループとは、男子にとっては共通の取り組みをするための手段だが、女子にとっては、居場所そのものである。そのグループのなかでは、男子は暴力等の「オモテ攻撃」が多いのに対して、女子は無視、手紙回し、陰口、ネットいじめなどの見えにくい「ウラ攻撃」が横行しがちであり、今日の①自信の喪失、②個人攻撃しやすい密室性のあるメディア、③他者への共感性の未発達、がその傾向を増幅させていると言う。

赤坂氏は、その傾向をアドラー心理学の視点から「居場所への所属欲求」の表れととらえる。その上で、「全員をひいきする」「グループ全体を視野に入れる」「感情を理解する」よう教師に提案し、いじめ、仲間はずし、グループ対立、集団反抗などへの予防策や対応術を具体的に解説する。

評者は次のように考える。男子を含めた青少年一般において、スクールカーストなどの格差の固定化のなかで、他の層との交友が遮断されて共存状態になり、その分、グループ内の関係が閉塞化しているのではないか。これに対して、今の同一化集団から、たとえいったときは孤立したとしても、一人で調べ、考えるような「個」を育てる教育の役割が重要であろう。そのためには、異年齢、異世代、異質の者との交流による「居場所」において、自信と共感能力を育てることによって、社会に開かれた視野の拡大と自立を促すことが必要と考える。

（聖徳大学教授・西村美東士）



○×イラストでわかる!
小学校高学年女子の指導

赤坂真二　著
1058円　学陽書房
☎03-3261-1111